

令和7年度 学校評価実施報告書

学校名 (朱雀中学校)

教育目標	
自分らしく ともに 生きる ために	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 「課題解決力・コミュニケーション力を育み、自らの未来を創造する生徒」を目指して、各教科とも話し合い活動を習慣化してきた。全国学力調査や学習確認プログラムの結果は昨年度より全般的に向上しており成果として現れているように感じる。各学年・各教科とも生徒にとって魅力的な授業実践になるよう、教科会を定例で実施し、授業について積極的に意見交換していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 行事や取組で来校する度に、生徒や教職員からの挨拶もあり学校全体の雰囲気の良さを感じる。各種アンケート結果を見ても、教職員と生徒・保護者がよい関係であることが見て取れる。1つ気になるのは、生徒アンケートで「自分には良いところがある」という項目に対して相変わらず否定的な回答が多いことである。生徒の様子を見ても、はつらつと行動しておりもっと自分に自信を持って欲しいと感じる。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月15日	学校運営協議会
最終評価		

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標
・主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善や家庭学習の充実を行う。 ・家庭学習の定着をはじめ、自ら学習する力及び自ら考え表現する力を身につけさせる。 ・一人一台端末などICT機器の効果的な活用を通し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実する。
具体的な取組
1. よんきゅう絆プロジェクト教育構想図「9年間の『学び』」の系統を具現化するために、「主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくり」のテーマのもと、「指導と評価の一体化」の考え方方に立って、小中合同の授業研究会を実施し、学習改善・授業改善及び学習評価の改善に取り組む。 2. 学習計画表(「明日を切り拓く」)を作成し、教員と生徒で学習目標と学習内容の共有を図る。また、他教科の学習内容を把握することにより、総合的な学習の時間を軸とした「課題解決力とコミュニケーション力」の育成を目指したカリキュラム・マネジメントをすすめる。 3. 小中一貫教育「朱雀中ブロック」で協力して、家庭での自学自習の習慣を身につけるために、家庭学習の具体的な方法などを提示し、授業に繋げる家庭学習の推進を図る。 4. 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点から、学習活動の充実を図り、GIGAスクール構

想推進のもと、ICT機器の整備及び効果的な活用方法を探る。

5. 学校司書との連携を密に図り、図書館活用を推進し、読書の推進だけでなく、各教科で図書館を活用した授業をすすめ、生徒自らが課題解決学習に取り組む力を育成する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ジョイントプログラム・学習確認プログラム・全国学力・学習状況調査の結果
 - ・生徒及び保護者アンケートの結果
- ① ICTを使った学習は分かりやすい。
- ② 子どもは、楽しく学校に通っている。
- ③ みんなと何かをするのは楽しいし学校は楽しい。

中間評価

各種指標結果

1年生対象のジョイントプログラムはたいへん良好な結果といえる。3年生の全国学力・学習状況調査についても、国語、理科ともに全国平均よりも高い結果となった。数学は平均値だった。2年生の学習確認プログラムの結果については、国・社・数・理・英の総合店の値で、全市平均を上回り、国語については6.4点全市平均より上回り、5教科でも全市平均より2.9点上回る結果となった。本校の強みや弱みに着目し、各教科の分析を行い積極的に授業改善を行う必要がある。また、日々取り組んでいる主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくりの実践については、引き続き行う。生徒及び保護者アンケートの結果は①～③の項目についてどれも高い数値を示し、良好である。

自己評価	分析（成果と課題）
	主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくりを継続しているなかで、成果に結びつくことが期待できない教科があったことに対し、しっかりとした分析のもと、授業改善に生かしたい。今回の生徒及び保護者アンケートからも、生徒の学習意欲を感じる。
	分析を踏まえた取組の改善
	今回の学習確認プログラムの結果を踏まえ、教科会を充実させ、個々の教員の力量を向上することを目指すと同時に、しっかりとした分析の下、授業改善を行う。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	2回目の生徒対象の授業・生活アンケート
	① ICTを使った授業は分かりやすい。
	② 子どもは、楽しく学校に通っている。
	みんなと何かをするのは楽しいし学校は楽しい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	学校運営協議会において、学校行事等参観していただく機会が少ない中、学校の取組に対して理解を示していただいている。また、保護者アンケートの結果からも先生方がしっかりと取り組んでいただけていることが覗える。
	(R7・10月学校運営協議会)

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標
・思いやりの心を育てるとともに自らを律することのできる生徒とその集団を育てる。
・場と状況に応じた適切な意思決定を伴った行動ができるように中学生としての意識改革を図る。
具体的な取組
<p>1. 道徳的実践力を生徒に身につけさせるために、「道徳の時間」を充実させるとともに、他の様々な教育活動を通して、思いやりの心をもち、自らを律することのできる生徒とその集団を形成する。その上で、やさしくて、温かい、相手を思いやる気持ちにあふれた校風を継承する。</p> <p>2. 華道体験等の伝統文化や芸術を通して、豊かな感性や情操を育む取組を充実させる。</p> <p>3. 他者との関わりを大切に、望ましい人間関係の中で、規範意識を育成するとともに、場と状況に応じた適切な意思決定を伴った正しく判断し行動できる生徒を育成する。</p> <p>4. 人権学習部を中心に組織的・計画的な「人権学習」を、カリキュラム・マネジメントの視点から構築する。生徒の「多様性を寛容する力」の向上を教育活動のすべてにおいて意識し、いじめにおいても発生させない、許さない指導の徹底を図り、人権文化の確立を図る。</p> <p>5. 「人のために」行動することの素晴らしさを知り、そして見守り育ててくれている地域との連携をすすめ、地域に貢献できる生徒を育てる。</p>
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業で生徒が記入したワークシート ・公開授業（道徳）の際の保護者からの意見 ・生徒アンケートの結果 <p>① 道徳の授業は、自分の生活を見直す機会となっている。</p> <p>② 友達との約束は守れている。</p> <p>③ 物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがある。</p>

中間評価

各種指標結果
各学年で工夫した道徳授業を計画し、わかりやすく伝えているため、ワークシートから、多くの生徒が、道徳的な感性が養われていることが分かる。1回目の生徒アンケートからも同様の結果になって

いる。また、生徒アンケートの①、②、③の項目も高い数値を示し、豊かな心の育成がなされていることがうかがえる。

自己評価	分析（成果と課題）
	「道徳の時間」や「人権学習」を大切に扱い、丁寧な指導を行っている成果が出ている。今後も道徳の公開授業の取組を進め、実践するなかで、保護者からの意見をいただきたいと考える。今までの取組を実践しながら、思いやりの心をもち、自らを律することのできる生徒とその集団の形成を目指したい。
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	今年度も今までの取組を継続し、さらに道徳的実践力を生徒に身につけさせるためにも、「道徳の時間」に限らず日頃の授業、学校行事など教育活動の中で、自らを律することのできる生徒とその集団を形成していくことを全教職員が意識して取り組んでいくことが必要であると考える。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	2回目の生徒対象の授業・生活アンケート
	①道徳の授業は、自分の生活を見直す機会となっている。 ②友達との約束は守れている。 ③ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	学校運営協議会で、「道徳の時間」や「人権学習」について高い評価をいただいた。
	(R7・10月学校運営協議会)

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標
・運動することを通して仲間と力を合わせて頑張る喜びを知るとともに最後までやり通す態度を育

てる。

- ・健康管理の大切さや自分自身の身の安全を守るための態度を養う。

具体的な取組

1. 体育学習および運動部活動、また地域の体育的行事を通して、積極的・主体的に運動に取り組み、生涯にわたってスポーツを楽しむ生徒を育てる。
2. 正しく感染症を理解し、健康管理の大切さを考え、学校生活を充実させるための望ましい生活習慣を身につけた生徒を育てる。そのためにも毎日の生徒の健康観察をていねいに行う。また、人権学習とも関連させて、自分自身の身を守れる生徒を育てる。
3. 社会に潜む危険から自分を守れる行動がとれるなど、自らを律することのできる生徒を育てるために、関連機関等との連携をすすめ、「薬物乱用防止教室」や「非行防止教室」、さらに、様々な災害等を想定した「避難訓練」に取り組む。
4. 食生活等、食に関する指導を進めるとともに、食物アレルギーのある生徒が増加する傾向にある中で、毎日の生活、特に宿泊学習などの校外活動を安心安全なものとするために、教職員が食物アレルギー・アナフィラキシーに対して正しい知識を持つための研修を充実させる。

(取組結果を検証する) 各種指標

生徒及び保護者アンケートの結果

- ① 学校行事に積極的に参加している。
- ② 部活動を楽しく主体的に参加している。
- ③ 地域の行事に参加している。

中間評価

各種指標結果 アンケートの

- ①について93パーセント以上の生徒が積極的に参加していると回答している。
- ② 約90パーセントの生徒が楽しいと感じている。
- ③ については部活動や塾など多様な事情があり、数値としては低かった。

自己評価

分析 (成果と課題)

学校行事や部活動が単に楽しいものだけで終わらず、積極的に取り組める環境の整備とさらなる高みを目指しながら、その活動を通して子どもたちにつけたい力を教職員が共有し進めたい。

分析を踏まえた取組の改善

今年度も、保健体育の授業や放課後の部活動はもとより、地域の運動会・社会体育に積極的に参加し、主体的に運動に取り組み生涯にわたってスポーツを楽しむ生徒を継続して育てたい。また、社会問題になっていること（感染症対策、薬物問題等）にも積極的に学びの中に取り入れ、意識を高めていきたい。そのためには、関係機関等との連携をすすめる。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

2回目の生徒対象の授業・生活アンケート

- ① 学校行事に積極的に参加している。
- ② 部活動に楽しく意欲的に参加している。
- ③ 地域の行事に参加している。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	学校運営協議会で、地域行事が行われれば積極的に参加して欲しいと要望をいただいた。また、若者を取り巻く社会から中学生を守るための方法をみんなで考え、実践していくことを確認した。 (R7・10月学校運営協議会)

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己 評 価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策

(4) 学校独自の取組

重点目標
生徒の自己指導力を高める。
具体的な取組
学力向上にも密接な関係のある「生徒の自己指導力を高める」為に、教職員は常に生徒たちの「長所」を視点として全ての教育活動に取り組む。また、あらゆる教育活動の中で、自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場を設定する。
(取組結果を検証する) 各種指標
生徒及び保護者アンケートの結果
① 自分には、良いところがあると思う。 ② 学校のルールを守って、学校生活を送っている。 ③ 朱雀中学校の教員活動に満足している。

中間評価

各種指標結果	
I回目の生徒アンケートの結果から約76%の生徒が、「自分には良いところがある」と答えている。「学校のルールを守って、学校生活を送っている」は100%の生徒が答えており、学校生活への意識の高さがうかがえる。また、68%の生徒が「将来についての夢や希望がある。」と答えている。	
自 分析（成果と課題）	

己評価	生徒指導の3機能を効果的に実践することにより、全教職員が、教育活動の中で自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場の設定を意識して取り組んでいることが高い数値に繋がっている。
	分析を踏まえた取組の改善 生徒の自己指導力を高める為に、教職員は引き続き生徒たちの「長所」を視点として全ての教育活動に取り組む。自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場を教育活動の中で意識して設定するという今までの取組を継続することが大切であると考える。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 2回目の生徒対象の授業・生活アンケート ① 自分にはよいところがあると思う。 ② 学校のルールを守って、学校生活を送れている。 ③ 将来についての夢や希望がある。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 学校運営協議会の中で、教職員は常に生徒たちの「長所」を視点として全ての教育活動に取り組むという姿勢に共感していただいた。引き続き学校の決まり（校則）についても、すべての生徒に配慮して慎重に進めて欲しいと意見をいただいた。 (R7・10月学校運営協議会)

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
	学校関係者による意見・支援策
学校関係者評価	

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標 働き方改革に向けて、教職員の意識改革を図ると共に地域・保護者との意識の共有に努める
具体的な取組 ・出退勤システムを適切に運用し、教職員の勤務時間縮減と管理を徹底する。 ・教職員定期健康診断の悉皆受診や要精検者への受診指導を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標
① ストレスチェック受検率
② 出退勤システム分析シートを活用しての月ごとの比較
③ 時間外勤務時間の前年度との比較

中間評価

自己評価	(各種指標結果)
	ストレスチェックの受検率は100パーセントである。教職員の超過勤務に関して、月によって傾向が違うが、超過勤務を大きく超える教職員はほとんどいない。
	(分析 (成果と課題))
学校関係者評価	新型コロナウイルス感染拡大防止対策等の影響もあり、働き方の改革に大きな影響があった。電話対応18時終了・部活動ガイドライン遵守、週1度のリフレッシュデーの設定が定着しているのも、成果の一つである。今後、超過勤務の時間が増加していることも予想される中で、個々の仕事への意識の変化を、今一度促す必要がある。
	(分析を踏まえた取組の改善)
	今後も、電話対応、部活動ガイドライン、週1度のリフレッシュデーの設定といった取組をしっかり行う。個々の仕事内容を精選するよう、意識改革を促す。また、行事の精選を積極的に行う。
学校関係者評価	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	① ストレスチェック受検率
	② 時間外勤務時間の前年度との比較
学校関係者評価	(学校関係者による意見・支援策)
	学校運営協議会では、教職員の働き方改革について理解を示していただいた。 (R7・10月学校運営協議会)

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	(分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題)
	(分析を踏まえた取組の改善)
学校関係者評価	(学校関係者による意見・支援策)

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標

他者へのいじめを行わないことはもとより、自分自身がいじめ防止等の取組の当事者となり、その解決に向けて主体的に行動できる「朱雀愛」豊かな生徒を育成する。

具体的な取組

「学校いじめの防止等基本方針」に同じ。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。
- ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。
- ③ いじめに係る既存の「学校評価生徒アンケート」の「学校は楽しい」「授業や学校生活で気になることがあれば自由に書いてください」の項目や「いじめアンケート」の結果を活用し、教職員が共有するととともに、適切な対応・指導を迅速に行う。
- ④ 児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。
- ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。

中間評価

各種指標結果

- ① 年度当初の校内研修会において「令和7年度 いじめ防止等基本方針」の内容・取組を全教職員で周知し、対策法など共有した。また、教職員アンケートの「教職員は学校いじめ防止基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めているか」の項目に対して、「よくできている」と「大体できている」が100%で理解していると回答している。
- ② 始業式の機会に校長から全校生徒に対して対面で紹介した。
- ③ 1回目の「いじめアンケート」結果より、1年生で4名、2年生6名、3年生1名の生徒からいじめにつながる事案を認知し、校内で情報を共有し対応した。教職員アンケートの「いじめアンケートの結果を活用し、情報を共有すると共に、適切な対応・指導を迅速に行っている」項目に対して、「よくできている」と「大体できている」が100%と高い意識を持って取り組めている。
- ④ 毎月1回の「いじめ対策委員会」を開催し、生徒や保護者からの相談内容・指導進捗等の情報を共有し、早期発見・早期解決に向けて情報の共有に努めている。
- ⑤ 「令和7年度 いじめ防止等基本方針」をホームページに掲載すると共に、学校運営協議会やPTA本部役員会に内容を6月に紹介し、周知した。

自己評価

分析（成果と課題）

「いじめの未然防止」等の校内研修会を行うことで、教職員の意識向上につながった。個々によって課題が違うので個に応じた対応が、研修により意識できた。研修を通して、生徒の居場所作り・絆づくりを意識した取組を継続することが未然防止に繋がることを全教職員で確認し、日々の生徒指導に対応していく認識を深めた。

分析を踏まえた取組の改善

1回目のいじめアンケートに頼らず、日々の生徒の様子や保護者対応に心を配り、いじめの未然防止・早期対応を継続して行いたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。
- ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。

	<p>③からかわれる、悪口やいやなことをと言われる。(いじめアンケート結果より)</p> <p>④児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。</p> <p>⑤保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>学校運営協議会において、現在の状況を報告した。また、これまでのいじめ事案等についての取組についても報告をし、意見をいただいた。学校の取組について、理解を示していただいている。 (R7・10月学校運営協議会)</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>